

●水鳥たちは、冬でも元気ハツラツです

新年を迎え、いよいよ寒さも厳しくなってきました。御所沼も凍る寒さですが、水辺の鳥たちは元気いっぱいです。散策しながら、ぜひ探してみてください。

●おなじみの「カモ科」も種類いろいろ

■カモで一番多いのはカルガモです。留鳥のため一年を通してよく見かけ、子連れの姿は良くニュースにもなりますね

その他にも越冬のためこの季節にやってくるカモの仲間がいます。どの種類もオスの模様が特徴的です。

頭からスッポリと緑のマスクを被った様な模様のマガモは、その特徴から「アオクビ」とも呼ばれます。

体が一回り小さく、茶色の頭に目からクビへ緑のラインが入っているのがコガモです。他の種に比べ、警戒心が強いので、少し近づくと逃げてしまいます。

最後にちょっと変わったカモをご紹介します。金色の眼、黒い体、白い羽を持つキンクロハジロは、見た目がそのまま名前になっています。特徴的なのは、他のカモと違って潜水して餌を捕ること。また飛び立つ時には水面を助走しますので、時間があったら観察してみるのも面白いですね。

●水辺の小さなハンター

■約25cmほどの小さな体で潜水し、小魚や貝類、エビなどを捕って食べるカイツブリ。潜水が上手な一方で、足の生え方が潜水に特化しているため、歩きはあまり得意ではなく陸にはほとんど上がらないそうです。地域によっては「もぐっちょ」の愛称で親しまれていて、公園内にも「もぐっちょの入江」と呼ばれる場所があるんですよ。

●迫力ある大型の水鳥たち

■留鳥で一年を通してよく見かけるサギの仲間。白く美しい姿で、一般的にシラサギと呼ばれているものでも種類があり、大きさで大中小が頭につきます。公園でよく見かけるのはダイサギです。その他に灰色がかった模様のアオサギもいます。どちらも意外と警戒心が薄く、観察しやすいです。また、魚捕り上手なカワウも見ることができます。園内での個体数は多くありませんが、場所によっては数が増えて、農作物被害や糞害などが問題となっている側面もあります。

●1年で最も寒いこの時期、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



マガモ



コガモ



キンクロハジロ



カイツブリ



ダイサギ



アオサギ



カワウ

■群れで陸を移動しながら植物の種等を食べていることもありますよ。

●もぐっちょの入江



★富士見塚

●富士山見えるか富士見塚

■空気の澄んだ冬、富士見塚の頂上から富士山が見えるかと思いきや、残念ながら樹木が成長して大きくなり、見ることはできません。ですが、見晴らしが良くとっても気持ちがいいので、冬にもおすすめのスポットです。

●名前はオオバン、覚えてね

■秋以降になると群れでよく見かけ、名前を聞かれることも多いこの鳥は、オオバンといひます。黒い体でくちばしから額まで白く、頭をクイックと前後させて泳ぐのが特徴です。



オオバン

●寒い中にも少しずつ春の足音・・・

こよみの上では春となる2月。さっぱりと静かな公園の中に、鳥たちや植物など、自然の息づかいが感じられます。未だコロナの収束が見えませんが、公園散策でリフレッシュしてください。

○さっぱりとした公方様の森を散策

■葉が落ちてしてスッキリとした公方様の森から見る周囲の景色は、また一味違います。笹などの下草も刈り取り、落ち葉も片付けてさらにさっぱりとしました。お日様が当たるようになった土の中では、春に向けて植物たちがスタンバイ中です。

■見通しの良い森では、キツツキの仲間「コゲラ」など、鳥たちの姿もよく見かけます。鳴き声や木をつつく音など、耳を傾けてみるとすぐに見つかるかもしれませんよ。



公方様の森



コゲラ

○個性色々、樹木の冬芽を見てみましょう

■冬の木々も春に向けて冬芽を準備中です。冬芽にも種類があり、枝から直接葉が出てくる「裸芽」と、芽鱗という殻のようなものに覆われた「鱗芽」があります。



①トチノキ



②ユリノキ



③コブシ

④アカシデ
(公方様の森など)

⑤イロハモミジ



⑥ネコヤナギ

- ①トチノキ・・・芽鱗が樹液に覆われ、乾燥を防ぐ。
- ②ユリノキ・・・アヒルのくちばしのような形の芽鱗。
- ③コブシ・・・あったかそうな毛がフワフワの芽鱗。
- ④アカシデ・・・芽の数が多く、大きいのが雄花芽、小さめで先が尖ったものは葉芽、もしくは葉と雌花の混芽。
- ⑤イロハモミジ・・・左右で2つ対に、一定の間隔を開けて縦横角度を変えて規則的に付く。
- ⑥ネコヤナギ・・・茶色の芽鱗の中からフワフワの花芽。

●寒さのピークは過ぎたようですが、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



○早春のお楽しみ

■⑧御所の梅林には、紅白のウメが咲き始めています。公方公園の梅は、平成21年頃から全国的に被害が広がった「ウメ輪紋病ウイルス」の発生による伐採を経て、平成30年から再植樹を行いました。若木のため、迫力、見ごたえはまだまだこれからですが、早春の公園を彩っています。



⑧ウメ



●カワセミ、いますよ！

■色鮮やかで美しいカワセミ。留鳥なので1年中見ることができますよ。



カワセミ



写真提供：小川正さん



●花桃、桜など、春の花をご紹介

〇今年も早めの開花となった「花桃」

●みなさんお待ちかね、今年も花桃の季節となりました。公園には主に5種類の花桃がありますが、一番先に見頃を迎えるのは「寒白」です。園内に数本ですが、純白の花が良く目立ちます。次にメインとなる「矢口」。全体の約8割を占めます。低木の寿星桃、1本の木に紅白の花がせめぎ合う「源平」、最後に菊の花に似た花卉を持つ「菊桃」へと続いていきます。



〇園内のあんな花こんな花

●春の公園を彩る花は、その他にもいろいろ。演歌「北国の春」に登場するコブシは白い花が綺麗です。中山台ほか園内に多くあります。桃林から徳源院跡への園路沿い、白い釣り鐘型の花がかわいい「スノーフレーク」。桃林の北東と民家園に1本ずつある「スモモ」は、白く可憐な花をたくさん咲かせます。民家園を囲む「乙女椿」は、淡いピンクの花がキレイですよ。



■感染リスクが高まる場面に注意

散策はできるだけとどまらずに。以下はご遠慮ください。

- ▶ 飲酒を伴う宴会など
 - ▶ 大人数、長時間の飲食
 - ▶ マスクなしでの会話
- ご理解、ご協力をお願いします。

●濃いピンクの黒川矢口

・矢口よりも色の濃いものは黒川矢口という種類です。



●花の場所は大体の目安です。印の場所以外にもありますので、てくてく探してみてください。

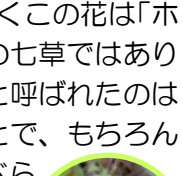
●黄色のアクセント

・園内の足元は、菜の花とスイセンもあちこちに。あわせてお楽しみください。



〇春の七草じゃないの？

●春の七草にホトケノザがあるのをご存知の方も多いかと思いますが、初春に咲くこの花は「ホトケノザ」であって、春の七草ではありません。以前ホトケノザと呼ばれたのは「コオニタビラコ」のことで、もちろんこちらは七草粥などで食べられますが、ホトケノザは残念ながら食べられないそうです。



●あざやかな花に囲まれ、心地よい春の公園。てくてく歩いて春を感じてください！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



公園を彩る春の野草たち

○公方様の森に咲く野草

① タチツボスミレ
スミレ科スミレ属の多年草。
ハート型の葉にうす紫色の
花が咲きます。日本を代表す
るスミレです。



② ニリンソウ
キンポウゲ科イチリンソウ
属の多年草。
昔、アイヌ地方では若葉を冬
季の重要な備蓄食料として5
月～6月にかけて採取してい
たそうです。



④ ウグイスカグラ
スイカズラ科スイカズラ属
の落葉低木。
ウグイスがなく頃に咲き、こ
の木の茂みに隠れる様が神
楽を舞っているようだとい
うことから名付けられました。



⑤ ウラシマソウ
サトイモ科テンナンショウ
属の宿根性多年草。
開花と共に一部が垂れ下
がり、まるで浦島太郎が釣り糸
を垂れている様に似ている
ことからこの名前がつけら
れたそうです。



③ ニワトコ
スイカズラ科ニワトコ属
の落葉低木。
接骨木（セッコツボク）
という名でも呼ばれてい
ます。若い芽は山菜に、
乾燥させた花は利尿剤
に、葉や幹は湿布として
打ち身や骨折に使われた
そうです。



野草を探してみましょう！



○美しい帰化植物も見逃さないで！

⑥ ハナニラ
ネギ亜科ハナニラ属
の多年草。
原産国はアルゼンチ
ンで、明治時代に観賞
用として持ち込まれ
ました。葉にはネギや
ニラのようなにおい
があります。



⑦ シヤガ
アヤメ科アヤメ属の
多年草。
原産国は中国で、はる
か昔に日本に伝わり
ました。日本にあるシ
ヤガは、同一の遺伝子
を持つそうです。



○足元に咲くちいさな花をさがしてみよう！



春の公園は何気ない景色の中にたくさん発見があります。てくてく探してみましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

○散歩も気持ちいい、新緑の季節

感染症対策をしっかり守って公園内での散策を楽しんでください。

○浄円坊池に咲く真っ白なスイレンの花。

スイレン属の多年草で、日本ではヒツジグサとも呼ばれています。水位が安定している池を好み、地下茎から水面まで長い茎をのばして葉や花を浮かべます。開花期は5月から10月。古代エジプトでは、太陽のシンボルとして、神話などに登場します。



スイレンとハスの違いってなんだろう？



スイレンとハスは、同じ水生植物でも似て非なるモノ。昔はスイレン科の植物とされていましたが、近年の研究で、DNAの配列や、花粉構造から違う植物だということがわかりました。

※園内の大賀蓮（おおがはす）が咲くのは、例年だと6月中旬ごろです。

○キリはとっても神聖な木なんです！

キリ科キリ属の落葉広葉樹です。古くから良質の木材として、タンスなどを作る際に重宝されています。また、神聖な木として昔から家紋や紋章などにも取り入れられてきました。かつて、豊臣秀吉も桐の家紋を天皇から賜っていたそうです。現代でも法務省では桐の紋章をつかっています。



○エゴノキはいろいろな使い方があります。

エゴノキは、昔、若い実を石鹸のように洗剤として洗濯に使用していました。また、今でも粘り気のある木材は、将棋の駒や和傘の口クロに使用しています。※口クロとは、和傘を開閉するための骨を束ねるパーツです。



○ピンクのかわいい花、ベニバナトチノキ。

ベニバナトチノキはアカバナトチノキと、セイヨウトチノキ（マロニエ）の交雑種です。毎年5月になるとかわいらしいピンクの花を咲かせます。



○巨木に咲くユリノキの花。



公園の入り口を見下ろすように並ぶユリノキ。その花は、かわいらしいチューリップのような形をしているのでチューリップツリーなんて呼ばれています。また、その葉は半

纏（はんてん）のような形をしているので、ハンテンボクという呼び名もあります。そのほかにも、レンゲボク（花がハスを思わせることから）とも呼ばれているみたいです。

○雨の多い季節ならではの花があります

○大輪の花を咲かせる大賀ハス

・古河公方公園一帯は、古代から湿地でした。そこで、湿地を代表する花として大賀ハスを千葉市から譲り受け、公園内の蓮田で育てることになりました。毎年大ぶりで優雅に咲くハスの花は、近づくと上品なハスの香りが楽しめます。大賀ハスの名前の由来は、二千年前の地層から中学生が発掘した種を、当時植物学の権威であった大賀一郎博士が発芽育成を成功させたことに由来しています。



○ハスの花の寿命は4日

・早朝5時頃から咲き始め、正午までには花が閉じてしまうため、午前9時までが見頃です。



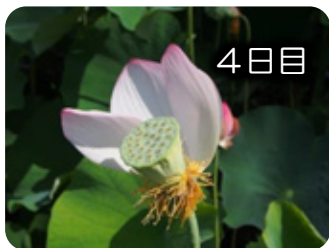
1日目



2日目



3日目



4日目

○白いニワトコの実もあるんです！

・ニワトコの実は赤いものがほとんどですが、ここには白いニワトコの実もあります。探してみましょう！



③

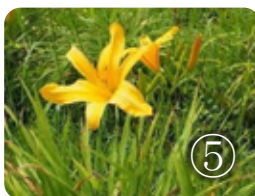
○涼しげな色合いの植物ハンゲショウ



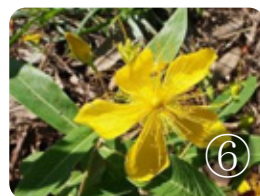
④

・ドクダミ科の植物で、主に湿地を好みます。花のすぐ下の葉が白く変化し、花弁の役割を果たします。

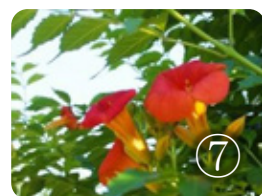
○その他、公園を彩る花々



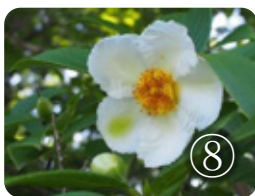
⑤



⑥



⑦



⑧

⑤ヘメロカリス

⑥ビヨウヤナギ

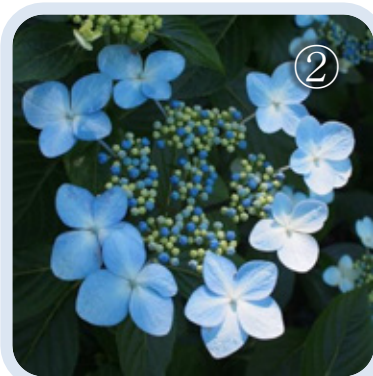
⑦ノウゼンカズラ

⑧ナツツバキ



○原種の美しさが際立つ、ガクアジサイの花

・6月を代表する花といえばアジサイですが、園内には普通のアジサイと少し違うものが存在します。それがガクアジサイ。日本にあるホンアジサイは、このガクアジサイを品種改良してきたものです。



②

○熱中症に気を付けて、公園散策でコロナ禍のストレスを解消してください。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●梅雨が明けて夏が始まります

○ハスの花托(かたく)の変化

●今年も見事に咲いた大賀ハスも、徐々に終わりを迎えます。花びらが散ったあとは、中心に残った花托(かたく)が大きくなり、その中で種が育ちます。表面の穴から種が見えるようになり、全体が茶色く変化してしなだれます。そして、風などで花托が揺れることで種が水の中に落ちるのです。



○7月の花々

●ウマノスズクサ

・川の土手に多く、ジャコウアゲハの食草になっています。名前の由来は、形が馬につける鈴に似ていることから来ています。



●ヤブミョウガ

・薄暗い林や藪に生え、葉の色や形がミョウガに似ていることが名前の由来です。白い小さな花が咲き、開花中に実もなります。



●カワラナデシコ

・秋の七草のひとつですが、初夏から花をつけます。『万葉集』や『源氏物語』、『枕草子』に登場します。



●イヌゴマ

・和名で犬胡麻といい、果実の形が食用のゴマに似ていますが、食用にならないのでこのような名前になりました。



ミソハギの仲間 エゾミソハギ



●エゾミソハギ

・ミソハギ科の多年草で、ミソハギと比べて背丈が高く、ガクや花に短毛が生えています。

○紫色が鮮やかなミソハギの花

●ミソハギは、日本各地の湿潤な土地に生える多年草で、病害虫に強く、とても育てやすい植物です。開花期は7月～9月で、盆花(ぼんばな)や精霊花(しょうりょうばな)という別名もあり、お盆には欠かせない花の一つです。



『オオシロカラカサタケ』に注意!

●この時期、園内の芝生の場所に『オオシロカラカサタケ』という白い毒キノコが生えています。食べると危険ですので口にしないようご注意ください。



●3密を避けるなど、コロナ対策をしっかり行い、熱中症に気を付けながら公園を楽しみましょう!

●木陰で休みながらお散歩をしましょう。

熱中症に気を付けて、こまめに水分を取りながら公園内を散策してください。

●夏の公園は魅力的な昆虫がいっぱいです！

●公園には水辺や雑木林など、昆虫が暮らす場所がたくさんあります。お散歩がてら、普段は見逃してしまう昆虫を探してみてもいいかもしれません。



①セミの脱皮



②サクラコガネ



③ノギリクワガタ



④ハゲロトンボ



●クビアカツヤカミキリの駆除にご協力ください



◎クビアカツヤカミキリ

●左の写真は、クビアカツヤカミキリといって、特定外来生物に指定されている昆虫です。園内でも発生しており、見かけたらお手数ですが、踏みつぶすなどして、可能な限り

捕殺し、管理事務所までお知らせください。

現在このクビアカツヤカミキリは、外来生物法という法律で、生態系等に係る被害の防止のため、駆除の対象となっており、生きたまま移動することが禁じられています。主にソメイヨシノやハナモモなど、バラ科の樹木を食害し、枯らしてしまいます。このため、ハナモモが多いこの公園では特に注意を払っています。ここ数年、全国的に被害が広がり、現在隣接する県でも問題になっています。公方公園の花桃を守るためにも、さらに、近隣のエリアへの被害を食い止めるため、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

●サルスベリの花も様々な色があります



⑤サルスベリ(ピンク)



⑥サルスベリ(赤)

●サルスベリは漢字で百日紅という名の通り、7月から10月の長期間花を咲かせます。

●夏を彩る花たち



⑦コバギボウシ



⑧ナツズイセン

●暑い夏の時期にきれいな花を咲かせる植物もあります。じっくり探してみてください。

●現在コロナウイルスが猛威を振るっています。感染症対策にご協力お願いいたします。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋の花を探しながら、公園の散策はいかがでしょう。

感染症対策をしっかり行い、密を避けながら、秋の公園を楽しんでください。

●秋を感じる道をてくてく散歩

●公園には秋を感じることできる道がいくつかあります。芋ころがし坂にはハギ、新久田道にはススキ、目洗弁天周辺にはヒガンバナ。時期になると秋の色彩が目飛び込んできます。



③ヒガンバナ



①ハギ



②ススキ

ヒガンバナの別名

ヒガンバナは、別名・地方名が多く、数百から千種類以上あるといわれています。曼珠沙華（マンジュシャゲ）、蛇花（ヘビノハナ）、剃刀花（カミソリバナ）、灯笼花（トウロウバナ）、天蓋花（テンガイバナ）など、ちょっと背筋がひんやりするような、一風変わった呼び名がおおいようです。



●他にも秋の公園を彩る花や実がいっぱい！

●特徴的な香りのするキンモクセイの花、足元でかわいらしく咲くコルチカム、雪華園の白いワタの実、日陰でささやかな花を咲かせるヤブランなど、秋の公園では、様々な種類の植物を楽しむことができます。

●甘い香りに誘われて・・・

●葉がハート形で、秋になると黄色に色づく、カツラという木をご存じでしょうか。この木は葉の老化や乾燥に伴い、甘いキャラメルのような香りを発します。つまり、葉が色づくことにより、香りが増し、とってもおいしそうな匂いがするのです。この匂いの成分はマルトールと



⑧カツラ

いう物質で、独特の甘み、香りを助ける働きを持っており、多くの食品に添加されているそうです。



④キンモクセイ



⑤コルチカム



⑥ワタの実



⑦ヤブラン

●コロナ対策を十分行い、秋の散策で気分をリフレッシュ！心も体も健康になりましょう。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

散歩に最適な季節がやってきました！

運動の秋がやってまいりました！秋の公園は、散歩やジョギングに最適な季節です。代謝をあげて、健康な体を手に入れましょう！

●どんぐりコロコロ・・・風の後には木の実を探そう！

秋はどんぐりがいっぱい取れる季節。公園内には何種類ものどんぐりの木があり、とくに風の強い日の翌日は、あちこちにどんぐりが転がっています。いろいろな形のどんぐりを見つけてみましょう！



①マテバシイ



②スダシイ



③クヌギ



④シラカシ

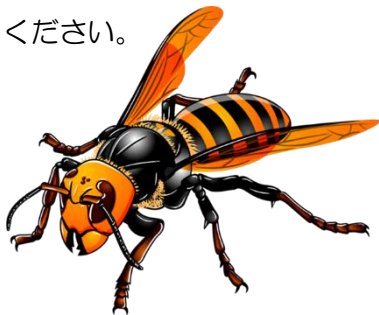


⑤アラカシ

※立入禁止
スズメバチに注意

□スズメバチに注意□

9月から11月にかけて、スズメバチが活発になる時期です。巣を見つけた方は、近寄らず、管理事務所までご一報ください。



TEL：0280-47-1129
古河公方公園管理事務所



- ①マテバシイ
- ②スダシイ
- ③クヌギ
- ④シラカシ
- ⑤アラカシ
- ⑥イチヨウ
- ⑦オニグルミ
- ★カモ類

●カッチカチのオニグルミ

夏に実ができるオニグルミは日本列島で、古くから食用とされてきました。秋になると実が落ちて、果肉を除いた部分、すなわち種の部分をとり出します。かたい殻に覆われたクルミの種の形、これがみなさんご存じのクルミの形ですね。



⑦オニグルミ



オニグルミの種

●モーレツに臭いです、イチヨウの実！

秋の味覚として、食べるとおいしい銀杏（ぎんなん）。しかし、その果肉部分はとってもクサいのです。靴で踏みつぶしてしまった時には気分も落ち込んでしまいます。そのにおいの原因は次の2つ成分なのです。

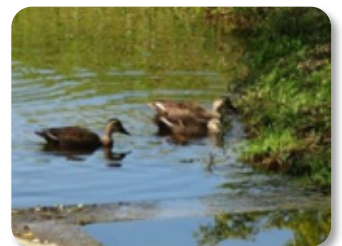
- ①酪酸（ラクサン）：蒸れた足のおい、人間の排泄物系のにおい。
 - ②エナント酸：腐った油のにおいのような腐敗臭。
- 要するにとってもクサいのです。もし靴の裏についちゃったときは、重曹などのアルカリ性のもので洗ってください。このにおいは酸性なので、アルカリ性の重曹で中和され、においが落ちやすくなります。



⑥イチヨウの実

●カモ参上！

今年もカモがやってきました。例年ですと、これから冬にかけて、御所沼ではマガモやオオバン、カイツブリなど、いろいろな種類の水鳥を観察することができます。楽しみに待ちましょう！



●引き続き感染対策をしっかり行い、秋の公園をてくてく散歩して、楽しみましょう！

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●深まる秋と色づく木々。

朝夕が寒い季節になりました。風邪をひかないよう、温かい格好で公園散歩を楽しんでください。

●秋になると、葉っぱが赤や黄色に色づくのはなぜだろう？

●クロロフィル（緑色成分）の分解

・気温が低下することにより、葉の中にある「クロロフィル」と呼ばれる緑色の成分が分解されます。

●アントシアニン（赤色成分）の発生

・夜間の気温が8～10℃を下回ると葉と茎をつなぐ部分に層が形成されて、光合成によって作られた糖が葉の外に移動できずに葉内に蓄積します。これを合成するための材料として、「アントシアニン」と呼ばれる赤色の色素が合成されます。つまり、上記の緑色成分が減って、赤色成分が増えるので、葉が赤く見えるのです。



ナンキンハゼの葉は、緑色から色鮮やかな赤色に変化します。



●カロチノイド（黄色成分）の存在

・葉には、もともと「カロチノイド」という黄色い成分があります。気温が下がることにより、上記の緑色成分が減り、黄色成分であるカロチノイドが残ります。つまり、緑色が減り、黄色の割合が相対的に多くなることで葉が黄色く見えるという仕組みです。



カツラの葉は、緑色から黄色へと変化します。



★普段は緑色だった葉っぱも、葉の種類や気温の変化によって、緑色・赤色・黄色のバランスが変わり、色鮮やかに変化するのです。

●紅葉する木々のご紹介

この時期は、赤色、黄色、オレンジ色など、色とりどりの紅葉が楽しめます。



③イチョウ



④イロハモミジ



⑥ドウダンツツジ



⑥モミジバフウ



⑦ユリノキ

●色鮮やかな紅葉を楽しみながら、秋の公園を散歩してみたいかがでしょうか。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●ひっそりと咲く、白くて素朴なお茶の花

●民家園南側に広がる茶畑。5月ごろに摘み取りを行い、お茶まつりなど、古河公方公園の風景としてとても人気スポットです。秋深まるこの時期、茶畑は別の顔を見せます。茶畑よく覗いてみると、小ぶりで白い、かわいらしい花が咲いているのがわかります。通常、茶葉の新芽への養分を多くするために、お茶の花が咲く前のつぼみの時期に摘み取り作業をしてしまいます。きれいな花なのに、あまり有名にならないのはそういう理由があるからかもしれません。



⑧チャノキ

お茶の正式名称は、チャノキ。ツバキ科ツバキ属の常緑樹です。花の咲く時期は、10月～11月下旬です。散歩がてら、茶畑を覗いてみてはいかがでしょうか。

●冬の公園を歩くと、新しい発見があるかも!?

冬になると渡り鳥や漂鳥などが多く確認できます。特に、御所沼やハス池にはたくさんの水鳥が飛来します。バードウォッチングでもしながら、てくてく散歩してみてもいいかもしれません。

○ じつはツルの仲間、オオバン

■利用者の方に「あの鳥は何ていう名前ですか?」と一番よく質問される鳥です。水面に浮かんでいることが多い印象ですが、この公園では陸上の食べ物をついばむ姿もよく観察できます。ツル目クイナ科の鳥で、



①オオバン

雑食のわりに植物を好んで食べます。ツルの仲間らしく、カモと比べると足が長くしっかりしていて歩くのも上手です。また、陸上で歩く後ろ姿が丸っこくてかわいらしいですよ。



○ 小さいカモだからコガモ(小鴨)

■全長 38cm の小型のカモです。漢字で書くと小鴨。日本に渡ってくる時はオスとメスは似たような見た目ですが、求愛の時期になるとオスは美しい見た目に変化します。越冬地につながいになって、繁殖地ですぐに産卵するそうです。



②コガモ

○ カモといったらマガモ

■カモといえばこの鳥。水辺の植物や木の実を食べます。園内でも森の中や芝生の上など地面をつついている姿を見ることができます。生息域が人間と重なっているため、古くから狩猟の対象となってきました。そのため野生のマガモは逃げ足が速いことが知られています。ちなみにマガモを家禽(かきん)化したものがアヒルです。



③マガモ

○ モズ(百舌)の変わった習性は繁殖のため、声を美しくするための栄養食

■全長 20cm の鳥で、その名の通り、他の鳥の鳴き真似をします。また、とがった小枝や有刺鉄線のトゲなどにバッタやカエルなどを串刺しにする変わった習性を持ちます。この習性を日本では「モズのはやにえ」と呼んでいます。この残酷な習性から、イギリスでは「屠殺人(とさつにん)の鳥」、ドイツでは「絞め殺す天使」などと呼ばれています。日本でも、江戸時代には、「モズの鳴く夜は死人が出る」とまで言われていました。ちょっと気の毒ですね…。この「はやにえ」について、最近の研究で明らかになったのですが、モズのオスは非繁殖期にのみはやにえを行い、そのほとんどを繁殖期が始まるまでに食べ尽くし、繁殖の歌声の質を高める栄養にしているそうです。



⑤モズ

●冬の公園にも生き物がいっぱい。暖かくして散歩を楽しんでくださいね!

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

